



2011 AUTOBACS SUPER GT In KYUSHU 250km RACE Race Report

▼10月1日(土)～ 10月2日(日) オートポリス(大分県) | コース全長：4,674m

- ・10月1日(土) 公式練習 09:00 - 10:45 | 公式予選一回目 12:00 - 12:45 スーパーラップ予選 14:35 - | 入場者数：12,500人 |
- ・10月2日(日) フリー走行 9:20 - 9:50 | 決勝 14:00 Start [54 Laps / 252.396 km] | 入場者数：23,500人 |

D'STATION KeePer SC430



Drivers	Qualifying	Final
脇阪寿一 / アンドレ・クート	5位	9位



いざ！九州ラウンド！たくさんのファンが待ち望んだオートポリスでの SUPER GT 開催は 2 年ぶり。

振り返れば、2 年前のここオートポリスでは、当時 LEXUS TEAM TOM'S に在籍していた脇阪が優勝を果たし、その勢いで逆転シリーズチャンピオンを獲得するに至った思い出の詰まったサーキットである。また、その時のチームメイトであり、親愛なる友人でもあるアンドレ・ロッテラー選手の亡父がガンを患い危篤の状態で臨んだレースでもあった。友人としても心を痛めていた脇阪は全身全霊で走り、見事優勝したことは記憶に新しい。そんな忘れられない思い出の詰まったこのサーキット。LEXUS TEAM KRAFT は今シーズンここオートポリスではテストを経験していないという不安要素はあるものの、シーズン終盤にかけてクルマの仕上がりは良くなってきたため、必ずや表彰台にあがるべく、レースウィークに臨んだ。

10月1日(土)

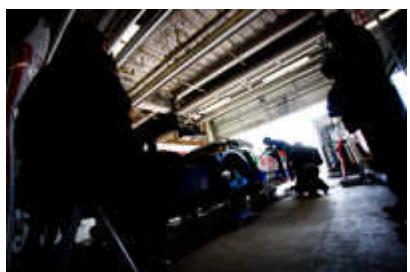
- ・ 10月1日(土) 公式練習 09:00 - 10:45 | 公式予選一回目 12:00 - 12:45 スーパーラップ予選
14:35 - | 入場者数 : 12,500 人 |

○公式練習 | タイム 1'42.728 | 順位 : 11 位 | 天候 : 晴れ | コース : ドライ | 気温/路面温度 : 開始時 16°C/21°C 終了時 19°C/27°C |

阿蘇山系は秋晴れのすがすがしい天候に恵まれ、前戦に続き決勝レースもドライコンディションで挑むことができる模様。日陰に入ると若干寒くも感じるが、それより青空がまぶしい。
まずは、脇阪がステアリングを握りコースイン。走行を開始してすぐ、持ち込んだクルマの足回りに良い感触がつかめず、修復を施すためピットイン。残りの走行時間も作業時間にあてることになった。



-脇阪寿一のコメント-



「今回新しくトライしたフロントの足回りがどうしても良い感触が得られず、それを調整していた為作業に時間がかかってしまった。タイムも悪かったので、これはどうしても必要な時間だった。(作業にかかる) 時間的にギリギリで、1回目の予選の間に食い込んでしまったが、メカニックが懸命に対応してくれた。皆の頑張りに感謝している」

○公式予選 1 回目

| タイム 1'40.715 | 順位：5 位 | 天候：晴 | コース：ドライ | 気温／路面温度 開始時 21℃／29℃
終了時 20℃／31℃ |

○スーパーラップ

| タイム 1'40.478 | 順位：5 位 | 天候：晴 | コース：ドライ | 気温／路面温度 開始時 20℃／30℃
終了時 20℃／28℃ |



練習走行の時間帯からクルマに修復を施している最中に、公式予選 1 回目の時間を迎えた。クルーはどうにか作業を終えクルマをコースへ送り出す。クート選手からコースイン。クート選手は予選通過基準タイムのクリアに予想以上に時間がかかってしまい、今度は脇阪のアタックの時間がギリギリに迫ってしまう。どうにか間に合い、ニュータイヤでアタック。足回りの変更も功を奏し、計測 1 周で脇阪も予選通過基準タイムをクリアし、専有走行時間帯を待った。

G T 5 0 0 クラス専有走行時間帯を迎えると、脇阪がアタックへ向い、5 番手をマーク。D'STATION KeePer SC430 は、前戦富士に引き続きスーパーラップへ進出した。

スーパーラップは6番目の出走。ウォーミングラップでタイヤを充分温めアタックに向かう。セクター 1, 2 とベストタイムで通過するも、セクター 3 で若干遅れてしまい、この時点で 2 番手タイムとなる。最終的に 5 番手となり、決勝レースを 3 列目の好位置からスタートすることとなった。

-脇阪寿一のコメント-

「全車ウェイトが半分になる中での予選 5 番手は、前回の富士の 4 番手よりも自分としては手ごたえを感じた。メカニックが予選までクルマの調整をしてくれたおかげで、クルマのフィーリングも良くなつた。クート選手が基準タイムをクリアするのに 3 周も時間を要したため、自分がアタックする時間が少なくなってしまったが、なんとかニュータイヤでアタックができた。ぎりぎりの綱渡りでもタイムを出せたことで、チームの士気もあがつた。ここオートポリスは、オーバーステアに調整しないとタイムが出ないので、アタックしているドライバーは、ドライビングの難しさからみんな細かいミスをしていると思う。自分もそのうちのひとりで、2 か所ほどミスを冒した。このサーキットは、そのミスから大きくポジションがダウンしてしまう傾向にあるが、それでもタイムを出せて好位置につけることができたのは、最近特に頑張っているメカニックが良いクルマに仕上げてくれたおかげであったと思う。欲を言えば、1 分 40 秒 4 の先頭は自分でいたかったが…。明日は、そのクルマとブリヂストンが持ち込んでいる新しいタイヤを投入して、今季初の表彰台にぜひ上がりたい」



10月2日(日)

・10月2日(日) フリー走行 9:20 - 9:50 | 決勝 14:00 Start [54 Laps / 252.396 km] | 入場者数 : 23,500 人 |

○フリー走行 | タイム 1'45.471 | 順位 : 13 位 | 天候 : 曇り | コース : ドライ | 気温 15°C / 路面温度 17°C |



曇り空で朝から冷たい風が吹くオートポリス。そんな寒さの押し寄せたサーキットには、朝から2年ぶりのレースを待ちわびた沢山の観客が訪れた。イベント広場には、食のブースやクルマの展示、イベントステージも多数設置され、フリー走行が始まる前から賑う。そして、フリー走行の始まる午前9時過ぎには、コースサイド、グランドスタンド、至るところに人が溢れ熱気が溢れている。そんな中、決勝に向けての最終確認であるフリー走行が始まった。脇阪からコースインし、1周でクート選手にドライバー交代。決勝セットの確認の為のロングランは、これまでのレースのことを鑑み、クート選手が担当した。残り時間のすべてをクート選手が走行し、このセッションを終えた。

○決勝 / 54 Laps / 252.396 km | 順位 : 9 位 | 天候 : 曇り | コース : ドライ | 気温 17°C | 路面温度 22°C |

オートポリスでの2年ぶりとなる決勝レース。予選5番手と好位置につけたD'STATION KeePer SC430、表彰台への期待は大いに高まるばかり。スタート前には、さまざまなセレモニーが催され、地元の歓迎を大いに受けつつ、盛り上がりもピークになったところで、午後2時のスタートを迎えた。決勝日の朝のフリー走行まで検討されたスタートドライバーは、これまで同様クート選手が務め、脇阪が引き継ぎ最後を締める形で戦うこととなった。そして、沢山の九州のファンに見守られる中、54周の戦いはスタートした。

オープニングラップの1コーナーは、全車混乱もなく通過。クート選手は早速前を行く8号車を捉え、4番手にあがるも、2周目には6号車に先行を許し5番手に。その後は、3位争いで連なる集団からなかなか身動きが取れない。7周目に前を行く6号車のペースが落ちたところをすかさず捉え、再び4番手にポジションアップ。しかし10周を終えたあたりから、自身のクルマのペースも落ち始めてしまう。11周目からは周回を重ねるごとに後続のクルマに先行を許してしまい、16周目には10番手までポジションダウン。チームは規定周回を待って、早々に脇阪にドライバーチェンジすることを決断した。

ピットインするクルマが出始めた22周目、9番手となったところでクート選手がピットイン。脇阪へドライバー交代、タイヤ交換、給油とルーティンのピット作業をミスなく終えクルマをコースへと送り出した。





全車ピットインを済ませた30周時点で10番手を走行。タイヤに厳しいコースであるオートポリスでは、後半のロングステイント担当は非常に厳しいものがあるが、そこはベテラン脇阪のタイヤマネージメントに期待がかかる。しかし、今回選択したタイヤのコースへのマッチングに大苦戦、終始我慢のレースを展開せざるを得ない状況となっていた。そんな中でも33周目には19号車をパスし、9

番手にポジションアップ。レース終盤、さすがに脇阪の手にかかる辛い状況となり、41周目には19号車に先行され10番手となってしまう。脇阪は残り周回をコース上に留まりゴールまでクルマを導くことに専念、我慢のレースは続く。残り2周となったところで、トップ争いに加わっていた2番手走行中の39号車が突如マシントラブルでスローダウン、コースサイドにクルマを停めたことにより9番手にポジションが上がり、嬉しいレースを戦い切ったD'STATION KeePer SC430は、そのまま9位でチェックマークを受けた。

-脇阪寿一のコメント-

「前回富士でのクート選手のペースダウンについて、チームでミーティングを徹底的に重ねて、今回はクート選手も頑張ってくれたし、前進していると思う。新たに投入したタイヤに皆が期待をかけたが、我々は（オートポリスで）テストを経験していないことから、結果的にクルマをうまく合わせこむことができなかった。今回も自分のステイントは長くなってしまったが、正直タイヤマネージメントをしづらい、していても感触がない状況だった。最後は厳しい状況の上で、左のリアタイヤが完全に摩耗してしまった。最初からプッシュして走行していたらどうなっていたかと思うと…。オートポリスは特殊なサーキットなので…と言い訳したいところもあるが、実際に早く走って優勝しているチームもあるので、さまざまなことを追及し、最終戦のもてぎに備えたい。」



決勝レースが始まるまでの見通しは明るいものであった。しかし、走り始めて、ここまで状況が悪化してしまうと、今シーズンの脇阪への試練という言葉で簡単に片づけてしまうことも躊躇してしまう。

決勝レース、全く歯車の合わない戦いっぷりを目の当たりにし、困惑してしまった方も多いであろう。脇阪の公式ブログでも決勝の状況を詳細に語っているので、そちらも参考にして欲しい。

http://www.js-style.com/blog/2011/10/gtrd_11.html

とうとう、今シーズンも最後の戦いを残すのみとなった。脇阪はどんな戦いを最後に見てくれるのだろうか。

今季のこの悔しい思い、鬱憤を晴らすようなレースをぜひ見せて欲しい。

次戦、今季の最終戦は、10月15-16日、ツインリンクもてぎ（栃木県）にて開催される。